

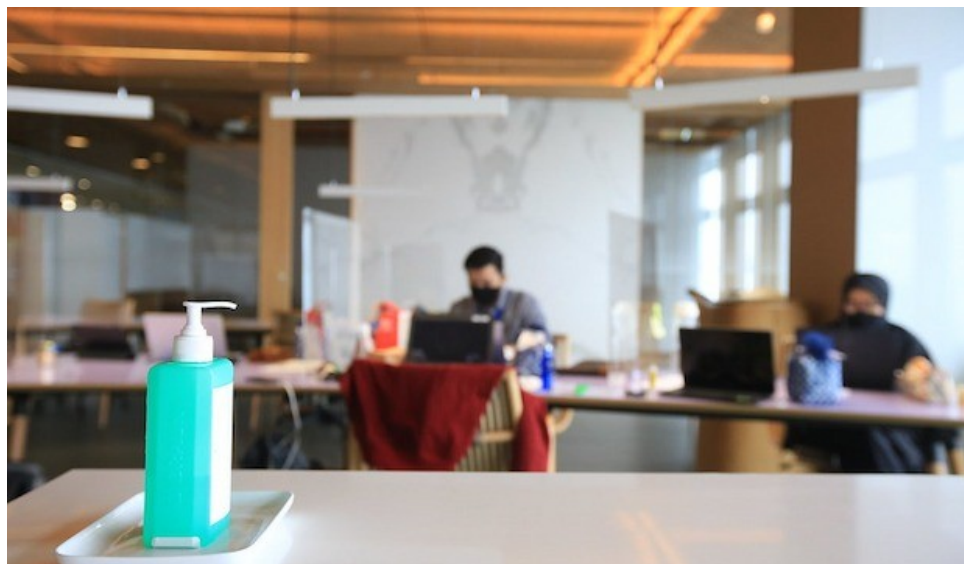
アクト・アクセラレーター ウォッチ
ACT-A WATCH

新型コロナとたたかう国際協働のいま



COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多くの教訓（前編：インドネシア、マレーシア）

2023.06.05 保健システム アジア 現場から



消毒用アルコールの置かれたインドネシアのオフィスにて、マスクを着けて働く人々 ©ILO/F. Latief

[ILO Asia-Pacific](#)

世界保健機関（WHO）は5月5日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による「[国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態](#)」の終了を宣言しました。2020年の宣言以来、世界で7億6500万人の感染や「少なくとも2千万人の死者」（テドロス事務局長）を数えた感染症のパンデミック（世界的な大流行）では、ACTアクセラレーター（ACT-A）という国際的な協力の枠組みが速やかに立ち上がる一方で、保健システムが脆弱な低・中所得国にとりわけ大きな負担を強いたほか、「ワクチン格差」に象徴される世界の不公正な現実

をも浮き彫りにしました。医療の現場などで対応にあたった医師や専門家らに、この3年余りの経験や今後の教訓について話を聞きました。

米ジョンズ・ホプキンス大学が今年3月10日まで集計を続けた[世界の感染者数データ](#)で、670万人余りの感染と16万人を超える死者が記録されたインドネシア。デルタ株とオミクロン株による感染爆発を2021年7月と22年の2月に経験しました。同国の結核対策で中心的な役割を担う専門家、エルリーナ・ブルハン医師は、感染者の急増によって当時の勤務先がCOVID-19の専門病院に指定されたことから、COVID-19対策に追われたと言います。「ACT-A WATCH」のオンラインインタビューに、エルリーナさんは「感染の急拡大で、医師や看護師ら医療従事者や、治療に必要な医薬品や資器材などの医療資源を（COVID-19対応に）集中させざるを得なかった。患者が殺到したり、医療用酸素が足りなくなったりすることも当初はあったものの、他国に比べても、感染のコントロールはうまくいったのではないかと振り返りました。

エルリーナさんは「結核対策の観点から、さまざまな学びや課題が見えてきた」と話しました。背景には、同国における結核の新規感染者は[世界で2番目に多い](#)という現状があります。多剤耐性結核菌（注：最も強い抗結核作用を持つとされるイソニアジドとリファンピシンに耐性を示す結核菌）の広がりも懸念されています。エルリーナさんはまず、社会に起きた前向きな変化を挙げました。「パンデミックを通じて、人々はマスクの着用や手洗い、他人との距離を取るなど、衛生面での習慣を身につけるようになった。インドネシアでは、マスクは病気にかかっていることを意味し、それまで予防のためにマスクを着用することはなかった。これは結核の感染を防ぐという点から、とても良い変化だ」と評価します。

その一方で、「COVID-19の感染を恐れて、結核患者が病院を避けるようになった」と指摘します。エルリーナさんは「罹患者が治療を受けないことで、家族やコミュニティーで感染を広げている。2019年の新規罹患者は84万5千人だったが、21年には96万9千人に増えた」と指摘し、今後さらに増えることを懸念しています。

またCOVID-19との闘いでは「政府や大学、医療関係者、宗教指導者、当事者らの緊密な連携や協力があり、それが功を奏した」と指摘した上で、「こうした成功例を踏まえ、結核対策でも、こうした枠を超えた連携が進むことを心より望んでいる」と話しました。

「COVID-19に関しては、イノベーションやテクノロジーを集約させることでワクチンの早期開発が実現した。結核対策では見られなかったことだ。[BCGに代わるワクチンの必要性](#)は長く言われているが、いまだに実現していない。COVID-19同様の取り組みをぜひお願いしたい」と期待を寄せました。



オンラインでインタビューを受けるエルリーナ・ブルハン医師

隣国マレーシアでも、パンデミックの初期段階で、医療資源をCOVID-19対策に集中させる一方、厳しい移動制限を課して、感染拡大を抑えようとしてきました。サバ州（ボルネオ島）の保健当局幹部は、「ACT-A WATCH」の取材に対して、「マラリアや結核など他の感染症の専門家をはじめとする医療関係者をCOVID-19対策に動員し、対応にあたった」と振り返りました。また移動制限の結果、結核やマラリアなど他の感染症の罹患報告は一時的に減少したといいます。しかし、「すでに移動制限は解除され、今後、感染症の患者数が増加するのは避けられないだろう。今後、感染の動向を注視しながら、適切な対応を取っていきたい」と話しました。

またこの当局者は、今回のパンデミックを通じて、COVID-19に関するリスクを行政や専門家、市民らが共有し、相互理解を促す「リスクコミュニケーション」の重要性を改めて認識したと述べました。「当初は、ウイルスそのものや感染の仕組み、予防方法など、未知なことばかりで、市民がパニックに陥る可能性も十分にあった。新しい病気が発生した時には、WHOや政府発の正しい情報のタイムリーな提供によってパニックを防ぐ、起こさないことがとても大切であることを学んだ」と強調しました。

シェアする

ツイート

一覧に戻る

NEWS

2023.06.06 **COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多...**

2023.06.05 **COVID-19とどう向き合ったか、専門家に聞く／今後の感染症対策で多...**

2022.10.21 ACT-Aの外部評価を公表 おおむね高評価の一方、今後の教訓も

2022.09.30 パンデミックの終息に向け、3つのギャップ克服を グテーレス国連事務総長

2022.09.29 最もリスクの高い人々のための検査と治療へのアクセスがカギ ACT-A分...

アクト・アクセラレーター ウォッチ

ACT-A WATCH

新型コロナとたたかう国際協働のいま

[TOP](#) [NEWS](#) [ACT-Aとは](#) [Twitter](#)

[Privacy Policy](#)

JCIE JAPAN CENTER FOR
INTERNATIONAL EXCHANGE
日本国際交流センター

〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目1番12号 明産溜池ビル 7F

Tel.03-6277-7811 Fax.03-6277-6712

©Japan Center for International Exchange (JCIE)

PAGETOP